

第7回 本,書店,図書館にまつわる
エピソード大賞

大賞

人生を教えてくれた場所

すずき まゆみ
鈴木 真由美 さん

今夏、医師から病であることを告げられ日赤に入院。辛い日々の始まりだった。唯一、病棟のデイルームから、窓越しに眺める街並みの景色だけが心の慰めであり、その中に「とりぎん文化会館」が佇んでいた。隣りには、通り慣れた「鳥取県立図書館」がある。だが、カゴの鳥には全てが遠く、外の世界が無性に恋しかった。

体調が回復すると、真っ先に図書館を訪ねた。静謐と紙の匂いに迎えられ、闘病記コーナーにて椅子に座り、本を開く。闘病記を読むのは初めてだったが、ひとつひとつのドラマに、涙したり励まされたりした秋の午後。見知らぬ人たちの人生に触れ、多くのことを学んだ。悲しい時は、思いっきり泣いたっていいんだ。病気になれば、誰でも心細くて不安に駆られる。時間は止まってくれない。与えられた一度きりの人生を、悔いなく、強く、柔らかく、心の底から生きたいと思った。図書館さん、元気をくれてありがとう。